



産科だより

回覧掲示

今年も残すところあと1か月になりました。1年間あっという間ですね。私たち助産師もいろいろなことがありました。出産したスタッフもいれば、産休から復帰したり、妊娠したり。日々家族が増える現場で働いていますが、スタッフの家族が増えるのはよりうれしいですね。そんな家族やいのちについて、先日、和知医師と助産師の町田・加藤が汐見台小学校から依頼を受けて講演をしてくれました。対象は5年生の約120名。和知医師からは妊娠・出産に関して、助産師からは今自分たちがここにいられることの奇跡や愛情の大切さや夢をテーマにお話させていただきました。内容を1つ紹介します。昔、ある国で行われた今では考えられない研究データで「おむつを替えたり、ミルクを与えたりはせずつに育てたら、その子がどんな言葉で話さようになるのか」というもので、子どもたちに「何も話さない子になる」か「逆にたくさん話す子になる」かのどちらでしょうかと質問しました。しかし、正解はどちらでもなく、実は「どの赤ちゃんも1歳まで育たなかった」でした。つまり人の成長には愛情が必要である

ということ。みんなは家族や周りの人からたくさん愛情をもらって育ってきたんだよ、ということ伝えて、家族の大切さを考えるきっかけになったのではないかと思います。50分という短い時間ではありましたが、子ども達も真剣に聞いてくれて、質問も時間が足りなくなってしまうほどたくさんしてくれました。そんなに興味を持ってくれて嬉しい限りです。

私たち助産師は、一般的には病院で働く人と思われがちですが、命の大切さを周りに伝えるのも役割の1つです。また依頼があれば、是非お話をしていきたいと思えます。



◆今月の赤ちゃん

12月らしく雪だるま3人組を撮影しました。本来ならば、小さめで産まれた赤ちゃんに体温調節のために使用するベビーキャップですが、今回は写真撮影の為に使用しました(笑)

この子達、みんな、3000g超えなので体温調節なんてへっちゃらです。ママ達から了解を得て撮影していたら我が子の撮影が気になったのか、ママたちもスマホとカメラを持ってにぎやかな撮影会となりました。我が子のかわいい姿を見てテンションの上がるママたち。疲れた顔でさつきまで授乳したのは気のせいかな・・・?



◆編集後記

写真のようになると、お腹の中にいた時と同じ格好になるので赤ちゃんが落ち着くことがあります。夜勤をしていると、なかなか寝付けない赤ちゃんを抱えたママ達から「やってほしい」「やり方を教えて」とよく依頼が来ます。これから出産予定のママたち。いつでも教えますよ。

担当 郷原